

食生活の変動性に關する研究(第2報)

-食品群別摂取の年間変動その2-

岩手県立盛岡短大 若狭 裕美子・〇齊 藤 憲・森 成子

〔目的〕食品群別摂取の年間変動その1では、穀類ほか9食品群について報告したので、続いてたん白性食品を中心とした大豆製品ほか5食品群について報告する。

〔方法〕その1と同じ。

〔結果〕1)食品群別摂取の年間平均値を手塚らの食糧構成例(18~19歳・軽い労作)と比較してみると、獣鳥肉類は、155.0%と極めて高く、次いで大豆製品、乳類が108.6%、104.7%で、みそ、奥介類、卵類は80~90%台の充足率であった。2)各食品群別の季節別変動状況をみると、奥介類、獣鳥肉類、卵類のいずれにも差はみられなかったが、大豆製品とみそに秋と冬との間に有意差が認められ(各々 $P<0.001$, $P<0.05$)、また乳類は秋、冬、春、夏に従って摂取量が徐々に延びているのが特徴的で、秋と冬がそれぞれ春と夏との間に有意であった($P<0.05$)。3)各食品群の月別変動状況をみると、大豆製品は、高い12月と低い2、3、4、8月とに有意がみられ($P<0.001$)、みそは一番高い11月と低い2月との有意差は大きかった($P<0.001$)。奥介類は他の食品群より変動は少なく、低い2月は11、1月と差がみられ($P<0.01$, $P<0.05$)、10月は11月との間に有意であった($P<0.05$)。獣鳥肉類は2、9、10月が極めて高く、他は平均以下で、特に高い2月は11、12、1、3、4月と有意がみられ($P<0.001$)、9、10月は11月との間に差が認められた(各々 $P<0.001$, $P<0.01$)。卵類は2月が一番高く、低い3、4、11月との間に有意であった。乳類は月別変動が激しく隔月毎に高低をくり返し、低い11、1月は高い9、6、8、7月との間に高差がみられ($P<0.001$, $P<0.01$)、他と異なつた変動状況を示した。